

今月のニュース



日本・カンボジア国交樹立60周年記念
武道・武術交流演武会

第57回全日本学生空手道選手権大会
荒賀慎太郎初優勝



第56回全国空手道選手権大会
根本敬介が連覇



平成 25 年度
全日本学生柔道優勝大会
東海大 6 連覇





日本・カンボジア国交樹立 60 周年記念武道・武術交流演武会

カンボジアの伝統武術 ボカタオを披露

7月1日 日本武道館



双棍の形



杖の形



護身の形



蓮杖とクロマーによる演武

ボカタオとは

ボカタオはアンコール王朝時代の軍隊で用いられていた対人近接格闘術で、戦場で使われるために作られた。技は日常の活動や鳥、馬、虎などの動物の動きをもとにしている。

前述のとおり、ボカタオはスポーツではなかったため、広く普及しておらず、さらに10年以上続いた内戦により、多くの名選手や指導者が亡くなった。生き残った選手や指導者はボカタオ絶滅を危惧し、2004年にカンボジア・ボカタオ連盟を創設。現在は24のクラブが加盟するに至っている。

また、カンボジアオリンピック委員会は、ボカタオを世界無形文化遺産としてユネスコに登録申請中である。

日本・カンボジア国交樹立60周年

記念武道・武術交流演武会（日本武

道館・在日本カンボジア王国大使館

共催）は7月1日、日本武道館大道

場で開かれた。当日はハオ・モニラ

ット駐日カンボジア大使、若林健太

外務大臣政務官、杉山晋輔外務審議

官をはじめ、カンボジア大使館関係

者や外務省関係者、武道関係者など

約300名が集まった。

演武会では、現代武道とカンボジ

アの伝統武術「ボカタオ」が披露さ

れ、集まった観衆を魅了した。

演武会は、定刻の17時半に白井日

出男日本武道館理事長の開会の辞に

より始まった。カンボジア・日本両

国の国歌斉唱に続いて、松永光日本

武道館会長が歓迎の挨拶を述べた。

「本演武会の開催にあたり、ボカタ

オ代表団の皆様を心から歓迎いたし

ます。ボカタオは2千年の歴史を有

するカンボジアの伝統武術とうかが

っており、本日はその素晴らしい技

法を存分に発揮されることを心より

期待いたします。

ボカタオと武道が交流することは

誠に意義深いことであり、本日の演



若林健太外務大臣政務官



ハオ・モニラット駐日カンボジア大使



臼井日出男日本武道館理事長



松永光日本武道館会長



剣道

武交流会が武道・武術の発展はもとより、日本とカンボジアの友好親善に寄与することを切に願ひ、挨拶といたします」

次にハオ・モニラット駐日カンボジア大使が挨拶に立った。

「日本・カンボジア国交樹立60周年の記念すべきこの年、カンボジア大

使館と公益財団法人日本武道館の共催により、史上初のカンボジア武術ボカタオと日本武道の交流演武会の開催を心より嬉しく思います。

私たちの友情は政治、経済、文化のあらゆる局面において、ますます深まってまいりました。政治的な面において、時に国と国が異なる視点

を持つことがあります。文化は一貫して友情の礎となります。ボカタオと日本武道の交歓という文化交流イベントをご披露できることを我々は誇りに思います。

ボカタオは2千年の歴史を持つ伝統の武術、世界最古の武術に位置づけられています。その重要性からカンボジア政府はボカタオを国家遺産として登録し、ユネスコ世界無形文化遺産への登録を目指しています。

本日の交流演武会でボカタオが広く認知され、また、カンボジアと日本両国民の長い友情がますます深まることを確信しております。どうぞ最後までごゆっくりご覧ください。

本日はありがとうございます」

続いて、若林健太外務大臣政務官が外務省を代表して挨拶に立った。

「日本・カンボジアの両国はこれまで強い信頼関係を結んでまいりました。日本企業における対カンボジア投資の増加による経済関係は急速に発展しております。同様にスポーツ交流も大変活発で、本年2月にはカンボジアに武道場を建設するための協力を決定させていただきました。

日本・カンボジア国交樹立60周年の



空手道



少林寺拳法



合気道



なぎなた



杖道



柔道

今年、毎月、記念事業が行われ、交流が進んでいることを感じます。両国の国民がより幅広い分野で交流することによって、相互理解を図り、両国間理解に一層つながることを期待いたします」

次に、参加者全員で記念撮影を行い、その後、演武となった。

演武は、日本武道から始まった。演武者は武道学園の講師と生徒である。剣道、空手道、合気道、杖道の順に披露された。最後にボカタオの演武が始まると、集まった観客はその迫力に、一様に驚いた様子であった。15分にわたるボカタオ演武が終わると、会場は大きな拍手に包まれ、演武会は盛会の裡に幕を閉じた。

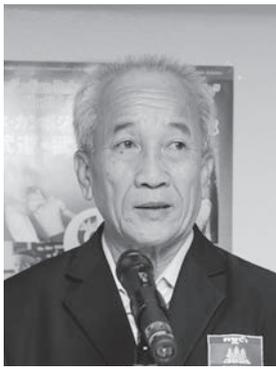
場所をレストラン武道に移して懇親会が行われた。まず始めに松永会長が挨拶に立った。

「本日の演武会は立派に行われました。観客の皆さんにもカンボジアのボカタオは素晴らしいものだとかつてもらえたいと思います。出場された皆さんに深く感謝すると同時に、武道とボカタオ、それぞれ国を代表する素晴らしいものですから、ます

ます盛んになることを期待しております。今後とも日本とカンボジアの関係がより一層深まり、両国の友好が発展することを期待して、ご挨拶といたします」

続いて、ハオ・モニラット駐日カンボジア大使が挨拶を述べた。

「ご承知の通り、ボカタオはクメール時代、絶滅の危機に陥っていました。しかし、スポーツ文化の復興を志し、今日にいたりました。本日の演武会を通じ、日本とカンボジアの友好関係が深まることを期待すると同時に、ボカタオ連盟および日本の



ホク・チアン・キム師範



小川郷太郎元在カンボジア日本国大使

武道連盟と引き続きの協力関係を築いていただければと思います。ありがとうございました」

続いて、小川郷太郎元在カンボジア日本国大使が挨拶に立った。

「日本の武道、カンボジアのボカタオ、それぞれ大変すばらしいものでしたし、お互いに刺激し合えるものであったと思います。私自身、2000年から2003年の間、日本の大使としてカンボジアに勤務いたしました。当初は経済協力が中心での交流も行われております。私がい



臼井理事長からボカタオ演武者全員に記念品が渡された

たのは日本とカンボジアの国交樹立50周年の頃でしたから、私も記念事業をする中で、柔道のデモンストレーションをいたしました。今日の演武会を拝見していて大変思い出深いものがありました。本当にありがとうございます」

ここで日本武道館から、ハオ大使、ホク・チアン・キム師範、小川元大使、ボカタオ演武者7名に記念品が贈呈され、続いてホク師範が御礼の挨拶を述べた。

「演武会を主催していただいた日本武道館に感謝申し上げます。私はボカタオの師範をしながら、カンボジアボカタオ連盟の事務局長を務めております。昔、柔道と空手道も勉強したことがあります。本日はボカタオ連盟の初めての来日でしたが、来年も再来年も開催されることを期待したいと思います」

次に、ボカタオ演武者から松永会長、臼井理事長、三藤芳生日本武道館理事・事務局長に記念品が贈呈されて、懇親会は乾杯に移り、挨拶は臼井理事長が行った。

「本日の交流演武会の成功をお祝い申し上げますとともに、武道を通じて

日本・カンボジア両国の友好関係がますます進展いたしますようにご祈念申し上げます。乾杯の音頭をとらせていただきたいと思います」

その後、歓談に移り、会場内の随所で武道演武者とボカタオ演武者の交流が図られた。

三藤理事・事務局長が閉会の挨拶を述べ、会が締めくくられると、最後はハオ・モニラット駐日大使以下大使館関係者や、ボカタオ演武者を出席者全員が拍手で見送って、懇親会はお開きとなった。

●キムチット・ソヴァナック君

演武者中、最年少（12歳）ながら、迫力の演武を披露した。観客から最も温かい視線を集めた演武者だ。

「僕の伯父さんがホク師範で、4年前に始めました。日本での演武はとても楽しかったです。今日見た武道はどれもとても素晴らしかったです。将来はボカタオの師範とサッカーの指導者になりたいです」

●ホク・チアン・キム師範

「ボカタオは内戦の影響で絶滅の危機に陥り、本格的に発展したのはここ最近のことです。ようやく若い世代に伝えられるようになりました。」



ホク師範から記念品が贈呈された



キムチット君（右から2番目）と日本の子どもたち

ボカタオができる人は本当に少なく、年配の方ばかりです。現在、ボカタオ連盟に加盟している道場は24クラブあって、各道場には最大で50名ほどの門下生がいます。

日本の武道にはどれも関心があります。私は12歳からボカタオを始めましたが、稽古をしているうちに日本の武道に興味を持ったので、合気道と空手道をフランス人の先生に、柔道を日本人の先生に習いました。今では空手道と柔道も教えています。

将来はカンボジアの小学校でボカタオを教えられようになりたいと思っています」

【演武者一覧】

- ▽ボカタオⅡホク・チアン・キム、エン・スマラー、サム・タロット、イム・モノー、ドウン・ヴァンデット、ホート・センホーン、キムチット・ソヴァナック
- ▽柔道Ⅱ篠原範昭、永福栄治、白鳥義輝、千品洋一、内海まゆみ、深瀬正広、石井良昭、ガトリング・ランス、菊池清美、慎重政、寶田かずほ、ハチャトリヤンス・ラフアエル、吉岡マルタ、児玉農大郎
- ▽剣道Ⅱ清川則夫、佐藤康二、鍛釣重三、寺田昭一、奥田博義、岡村直樹、松原勝貴、鈴木岳斗、栗原遼太郎、渡邊倫太郎、五十嵐敬大、佐藤直明
- ▽空手道Ⅱ岡林俊雄、柴田智敬、荒川尊祐、戸谷和弘
- ▽合気道Ⅱ藤巻宏、小谷佑一、徳田雅也、里館潤、川

- 口誠人、國分律之、深瀬正広、吉野英樹、日下拓、宮本真由美、白川祐胡、筒井健夫、山下隆二、佐藤高広
- ▽少林寺拳法Ⅱ渡辺待男、田中喜博、巽俊蔵、赤松泰一、河田陵佑、梅木賢一、辻優希、辻千智、チモンエンコ・ナタリア、新井亜主美、渡辺彩夏
- ▽なぎなたⅡ小野恭子、加藤れい子、芦川寿美、福尾薫、大越万里子、七字ひろみ、小村智栄子、栗田麻未、小川貴美子
- ▽杖道Ⅱ古川瞬也、荒井洋、釣賀敏郎、藤崎興朗、萩原太郎、小野景久、長濱美知子、石崎珠枝、岸野紘子、中村美代子、小谷純司、河野恵美、白鳥陽子、遠藤尚子、白川凌

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

Edited by Nippon Budokan Edited and Translated by Alexander Bennett

This book introduces the long history of the Japanese martial arts, and includes a comprehensive timeline, glossary of terms, and an index. The federations representing the arts of Jūdō, Kendō, Kyūdō, Sumō, Karatedō, Aikidō, Shorinji Kempo, Naginata, and Jūkendō, as well as various other Budō-related societies and experts contributed to the content. A must have for all martial arts enthusiasts.

B5, Bound, DVD included

Retail: Bunkasha International Corporation
<http://www.kendo-world.com> E-mail: info@kendo-world.com
 ご注文は全国の書店またはamazon, 日本武道館ホームページで

英語版
 『日本の武道』
 海外修業者に
 おすすめの本!



好評発売中



スポーツドクター **辻 秀一** 著
 四六判・上製・248 ページ

武道やスポーツは「医療である、芸術である、コミュニケーションである、教育である」とする筆者が、指導者のために書いた良きハンドブック。ぜひ、ご一読を。



ほんとうの価値の伝え方

武道スポーツの真髄

主な目次

- 第1章 「文武両道」の人間教育
- 第2章 真剣勝負を楽しみ、人間的成長を図る
- 第3章 「セルフイメージ」という心のエネルギー
- 第4章 トップアスリートに学ぶ「社会力」
- 第5章 たかが目標、されど目標
- 第6章 「武士道書」に学ぶ
- 第7章 子どもたちの「社会力」を育てる
- 第8章 「オンリーワン」の子どもを育てる

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ！

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道

過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)



各部門優勝者。左から栗原一晃、大谷津麻里、根本敬介、中町美希

内閣総理大臣杯 第56回全国空手道選手権大会

男子組手 根本敬介が2年連続3回目の内閣総理大臣杯

男子形 栗原一晃が5年連続7回目の優勝

女子組手は大谷津麻里が初優勝、女子形は中町美希が2連覇

内閣総理大臣杯第56回全国空手道選手権大会（主催 公益社団法人日本空手協会）が、7月13日（東京体育館）、14日（日本武道館）の2日間にわたって開催された。

組手では、男子は根本敬介（指定）が連覇し、女子は初出場の大谷津麻里（直轄団体）が優勝して、内閣総理大臣杯に輝いた。

形では、男子は栗原一晃（指定）が5連覇、女子は中町美希（指定）が連覇を果たした。

■個人戦男子組手

準決勝まで勝ち進んだのは、前回優勝の根本敬介（指定）、糸田力（指定）、猪越悠介（本部推薦）、忠鉢孝治（指定）の4名。

根本対糸田では、根本が上段突きで技有りを奪って先制する。さらに根本は糸田が倒れたところに中段突きを決めて、決勝へ駒を進める。

猪越と忠鉢の対戦では、両者得点がなく再試合となり、猪越が上段突きで技有りを2本奪って、4年ぶりの決勝進出を決める。

決勝は根本対猪越、優勝経験者同士の対戦となった。まずは根本が上



準決勝＝猪越（左）対忠鉢



準決勝＝根本（上）対糸田

段蹴りで技有りを先取。すると、猪越が上段突きを決めて1対1に並ぶ。同点のまま試合時間終了となり、再試合にもつれ込む。終盤、猪越が攻め込んできたところに、根本が上段突きを決めて技有りを奪うと、その直後に猪越も上段突きで技有り。試合が白熱する中、根本が再び上段突きを決めて試合を制した。根本は2年連続3回目の優勝。

◎優勝Ⅱ根本敬介選手

「1戦1戦本気でやってきたのが連覇という結果に繋がって、嬉しく思います。決勝の猪越選手とは、一

決勝Ⅱ根本（左）対猪越。
根本が上段突きを決める

緒に稽古していて手の内も知り尽くしているの、初めはなかなか技が出せなかったのですが、再試合になってからは思い切り戦いました。勝てたのはちょっとしたチャンスを掴めたからだと思います。来年は世界大会もあるので、しっかりと稽古して勝てるよう頑張ります」

■個人戦女子組手

準決勝には、佐野まどか（東京）、大谷津麻里（直轄団体）、椎名舞（本部推薦）、山田沙羅（直轄団体）の4名が勝ち進んだ。



決勝Ⅱ大谷津（右）対椎名

佐野と大谷津の対戦では、佐野が上段突きで先制すると、大谷津が中段突き、上段突きを決めて逆転勝ちした。

椎名対山田は、両者得点のないまま終了して再試合となるが、椎名が技有りを奪うと山田も取り返して同点となり、先取り方式の再々試合にもつれ込む。緊迫する中、椎名が上段突きで決勝進出を決めた。

決勝は、初出場の大谷津と23年度優勝者の椎名の対戦となった。果敢に攻める大谷津が上段突きによる技有りで先制すると、椎名も上段突きを決めて同点となる。そのまま試合時間が終了して再試合へ突入する。攻防の中で、椎名の蹴りが大谷津の顔を強打し、反則を取られる。よって、大谷津の初優勝が決まった。

◎優勝Ⅱ大谷津麻里選手

「優勝と言っているのか……。最初に1点取った後に集中できていれば、こういう結果にはならず、しっかりとした優勝に繋がったと思います。これでは相手の選手もすつきりしないと、次回は最後のベルが鳴るまで気を抜かずに戦いたいです」

■個人戦男子形

準決勝で得点が上位だった8名が決勝に進み、順位決定戦が行われた。勝ち進んだのは、栗原一晃（指定）、吉田直之（本部推薦）、福原秀樹（群馬）、丸岡直人（指定）、猪越悠介（本部推薦）、栗原秀元（指定）、上田大介（指定）、糸田力（指定）。

2位の上田と3位の丸岡は、ともに壮鎮を演武し、41・7点の同点で栗原に続く。最後に、雲手で勝負に臨んだ糸田が41・8点を出す。よってここで、栗原の5年連続7回目の優勝と、糸田の2位が決定する。

同点だった上田と丸岡は再試合となり、それぞれ再び壮鎮を演武した結果、上田が42・2点、丸岡が41・6点で、上田の3位入賞が決まった。

町美希（指定）、上杉ユミ（埼玉）、久保田朋美（新潟）、ローシン・キヤンベル（指定）、影山日向子（指定）、柴崎暢子（埼玉）、氷川菜緒（直轄団体）、高木綾乃（指定）。

最初に演武したのは前回優勝の中町。五十四歩小で42・0点をマークする。その後、氷川が五十四歩小で41・1点を取って中町に次ぐ得点だったが、最後に演武した前回2位の



第2位=糸田力（雲手）



第3位=上田大介（壮鎮）



優勝=栗原一晃（壮鎮）

◎優勝Ⅱ栗原一晃選手

「嬉しいです。連覇ということはいつも意識していません。毎年毎年の試合を勝てるようにという気持ちでやっています。来年は世界大会があるので、それに出来るよう調整していきます」

■個人戦女子形

順位決定戦に勝ち進んだのは、中



第2位=高木綾乃（五十四歩大）



第3位=氷川菜緒（五十四歩小）



優勝=中町美希（五十四歩小）

好評発売中

唐手から空手へ

金城 裕 著

四六判・上製・四五四頁

今の空手はその源流である唐手の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためには、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繕きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp

高木が五十四歩大で41・5点を獲得して2位に割り込む。中町は2年連続2回目の優勝となった。

◎優勝Ⅱ中町美希選手

「去年より良い形を打てたのではないかと思うので、満足しています」

去年は産後1カ月で出場して優勝。今年は母になって1年、心境等の変化は…

「母として人間的にも強くなったので、空手も辛いと思うことはなく、楽しいという思いでやっています。それから、周りの支えがあつて空手をできているということを実感しています」

【大会結果】

■個人戦組手の部

▽男子①根本敬介(指定) ②猪越悠介(本部推薦) ③忠鉢孝治(指定)、

衆田力(指定)

▽女子①大谷津麻里(直轄団体) ②椎名舞(本部推薦) ③山田沙羅(直轄団体、佐野まどか(東京)

▽高校生男子①卯山優(埼玉) ②児玉侑也(宮城) ③鍋谷駿之介(富山)、尾見奨研(茨城)

▽高校生女子①海老原佳菜(茨城) ②齋藤綾夏(山口) ③松浦伽奈(福岡)、増田美優(大阪)

▽個人戦形の部

▽男子①栗原一晃(指定) ②衆田力(指定) ③上田大介(指定)

▽女子①中町美希(指定) ②高木綾乃(指定) ③氷川菜緒(直轄団体)

▽高校生男子①本龍一(千葉) ②尾見奨研(茨城) ③北澤久遠(長野)

▽高校生女子①松原美咲(大阪) ②小林里菜(茨城) ③石原優(長野)

▽団体戦組手の部

▽一般①哲士会(長野) ②行田支部(埼玉) ③渋川空友館A(群馬)

▽都道府県①東京都②群馬県③宮城県

▽女子①鴨空会(東京) ②駒澤大(東京) ③大正大(東京)

▽大学①国士舘大(東京) ②駒澤大(東京) ③愛知学院大(愛知)

▽高校生①松商学園高校(長野) ②東北学院高校(宮城) ③山口県鴻城高校(山口)

▽団体戦形の部

▽一般①渋川空友館(群馬) ②長野朝陽支部(長野) ③北方支部(岐阜)

▽都道府県①茨城県本部②東京都本部③群馬県本部

▽女子①青山学院大(東京) ②駒澤大(東京) ③埼玉県本部

▽大学①駒澤大(東京) ②大正大(東京) ③国士舘大(東京)

▽高校生①大網支部(千葉) ②松商学園高校(長野) ③茨城県本部(茨城)

全日本学生空手道選手権大会並びに東西対抗戦

組手競技

男子、荒賀慎太郎（京都産業大）
女子、染谷香予（帝京大）が優勝



男子決勝＝荒賀対遠山（将）、荒賀（左）の上段突きが決まる



女子決勝＝染谷対植草、染谷（右）が上段蹴りで先制

第57回全日本学生空手道選手権大会並びに東西対抗戦は、6月30日に日本武道館で開催され、男女組手、形で学生空手道日本一が競われた。

組手競技は、男子が荒賀慎太郎（京都産業大2年）、女子は現役世界チャンピオンの染谷香予（帝京大4年）が優勝を遂げた。形競技は、男子が在本幸司（帝京大4年）、女子は昨年引き続き清水希容（関西大2年）が頂点に立った。

また、選拔選手による東西対抗戦も行われ、男女とも東軍が勝利した。

■組手

男女共にトーナメント方式で争われた。男子は4回戦まで2分間6ポイント先取、準々決勝からは、3分間8ポイント先取、女子は全試合2分間6ポイント先取で競われた。

◇男子（129名出場）

ベスト4には、荒賀慎太郎（京都産業大）、遠山将平（帝京大）、須田芳広（国士舘大）、遠山大輔（明海大）が勝ち上がった。

準決勝、荒賀対須田は、荒賀が4―3の僅差で須田を退けた。一方の試合は兄弟対決となり、兄の遠山（将）が7―3で勝利した。

決勝は荒賀と遠山（将）が対決した。両者右構え。

先制したのは荒賀。遠山の左中段回し蹴りを受けながら、中段逆突きを決める。荒賀はさらに、遠山の出ばなに上段逆突きを合わせてリードを広げた。一方、遠山も負けじと上段突きで攻め、3連続のポイントで逆転。しかし、荒賀もすぐに取り返して3―3と並んだ。

その後は突き技で交互にポイントを奪う展開となる。終盤に入り5―

5で並ぶ中、荒賀はワン・ツーで攻め、上段逆突きを決める。そのまま時間となり、荒賀が6―5で勝利。嬉しい初優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ荒賀慎太郎選手(京都産業大)



「この大会は3年前に兄(龍太郎)が優勝している

ので、自分も勝ちたいと思っています。遠山選手は返し技が上手なの

で、無理に蹴り技を使わず、突きで勝負しようと考えました。早く世界に通用する選手になりたいです」

○準優勝Ⅱ遠山将平選手(帝京大)

「準決勝で弟と当たりましたが、高3以来の対戦でした。その時は負けてしまったので今回勝ってよかったです。決勝は詰めめが甘さが出ました」

◇女子(82名出場)

昨年の世界大会-68kg級優勝の染谷

香子(帝京大)と、前回大会でその染谷を決勝で退けた植草歩(帝京大)に注目が集まった。両者とも順調に勝ち上がり、ベスト4に進んだ。

準決勝、染谷は中村しおり(京都産業大)と顔を合わせ、蹴りで間合いを詰めながら、上段突きを決めるなどして3―0で勝利した。

一方、植草は同級生の金子悠里(帝京大)と対戦し、中段突きを重ねて、2―1で接戦を制した。

決勝は前回同様、染谷と1学年後輩の植草による同門対決となった。

開始30秒、染谷は接近戦からの離れ際に左上段蹴りを放つと、これが植草の側頭部を捕らえ(右頁写真)、一本で先制した。その後、染谷は植草の中段突きでポイントを奪われるも、上段突きを2つ返して引き離す。さらに、染谷はカウンターの中段突きを決めて勝負あり。6―1で初優勝を遂げた。

染谷の兄(隆嘉)は、2年前にこの大会の組手競技を制しており、男女の違いはあれども、荒賀と同じく兄弟優勝の記録が生まれた。

◎優勝Ⅱ染谷香子選手(帝京大)

「この大会に出場できる最後の年だ



だったので、勝ちたいという意地がありました。決勝の

上段蹴りは意識せずに出ました。守りに入ると負けてしまうことが多いので、先制しても攻めの姿勢は崩しませんでした」

○準優勝Ⅱ植草歩選手(帝京大)

「いままで一番悔しいです。穴のない組手が出来るよう努力します」

■形

男女共に予選は採点方式で行われ、上位8名が決勝に進出した。決勝はトーナメント方式、審判員5名の旗判定により、勝敗を決した。

◇男子(32名出場)

決勝トーナメント初戦の勝者は、在本幸司(帝京大)、中嶋俊文(慶應義塾大)、星川大地(関西大)、林田至史(帝京大)。それぞれ、岩鶴、コウソウケン大、チャタンヤラ・クーシヤンク、ウンスーを演武した。準決勝、在本と星川の対戦は、在本がソーチン、星川がバイクを演武。結果は在本が5―0で完封した。



男子準決勝=遠山(将)対遠山(大)、兄弟対決は兄の将平(右)に軍配



男子準決勝=荒賀対須田、荒賀(右)が上段突きで攻める



女子準決勝=植草対金子、植草(右)の中段突きが決まる



女子準決勝=染谷対中村、染谷(左)が蹴りで攻める

中嶋対林田は、中嶋がチャタンヤラ・クーシャンクラー、林田がソーチンを選択。5-0で中嶋が勝利した。決勝は、在本と中嶋の対戦。在本は松濤館流のウンスー、中嶋は糸東流のウンシューを演武した。在本は

男子形、在本幸司が力強い突き蹴りで頂点に立つ



男子優勝Ⅱ在本幸司（帝京大・ウンスー）



男子準優勝Ⅱ中嶋俊文（慶應義塾大・ウンシュー）

男子3位Ⅱ右下・星川大地（関西大・バイク）
下・林田至史（帝京大・ソーチン）

高い跳躍からの体捌きや、力強い蹴込みをみせる。一方の中嶋は正確な技を重ね、隙のない演武でまとめた。判定は4-1で在本が勝利。初優勝を決めた。

◎優勝Ⅱ在本幸司選手（帝京大）

「毎日限界を決めずに稽古をしてきました。トーナメント初戦はソーチンの予定でしたが、相手が強敵の久保弘樹選手（京都産業大）と知って、得意の岩鶴を選択しました。決勝は、納得のいく形が出来ました」

◇女子（34名出場）

前回1年生でこの大会を制し、さらに全日本選手権で準優勝の成績を残した清水希容（関西大）に注目が集まった。決勝トーナメント初戦を突破したのは、その清水と大野ひかる（同志社大）、柏岡鈴音（同志社大）、川崎衣美子（国士舘大）。それぞれ泊バツサイ、アーナン、サンセール、スーパージンペイを演武した。準決勝、清水と柏岡の対戦は、清水がチャタンヤラ・クーシャンクラー、柏岡がスーパーリンペイを演武。結果は4-1で清水が勝利した。大野対川崎は、大野がサンセール、川崎がコウソウクン小を選択。大野が5-0で完勝した。

決勝は、清水と大野の対戦。清水

は糸東流、大野は剛柔流のスーパーリンペイを演武した。清水は体軸をしつかりと保ちながら、淀みない運足で堂々の演武を披露。一方、大野もキレのある攻撃技と安定感のある受けをみせた。

結果は全ての旗が清水に揃い、2連覇を達成。関西大学としては梶川凜美の4連覇に加えて6連覇を果たした。

◎優勝Ⅱ清水希容選手（関西大）

「いろいろな大会の決勝でよく顔を合わせる柏岡先輩と、準決勝で勝負するとわかって、そこで一番の得意形を出しました。今日はいい形を打てたと感じています。硬さを除き、しっかりと感えています。硬さを除き、しっかりと技を出すことが課題です」

■東西対抗戦

東西対抗戦は、男女とも各15名、一人1試合の対戦方式で、試合時間2分間の一本勝負（「有効」なし、一本に近い技を「技あり」とし、2つで一本に相当）、時間内に決しない場合は判定が行われた。

◇男子

先鋒戦は西軍・荒賀慎太郎（京都産業大）が東軍・野口雅浩（帝京大）に、時間終了間際で上段突きを決め、判定で勝利。その後は接戦が続き、12鋒戦終了時点で6-6のタイ。

13鋒戦は東軍・遠山将平（帝京大）が西軍・出町恭太郎（近畿大）に勝利して東軍が一步リード。しかし、副将戦は西軍・一瀬勇希（京都産業大）が東軍・米山英弥（国士舘大）

女子形、清水希容が2連覇



女子3位=右・柏岡鈴音(同志社大)・スーパーリンペイ
左・川崎衣美子(国士館大)・コウソウクン小

女子準優勝=大野ひかる(同志社大)・スーパーリンペイ



女子優勝=清水希容(関西大)・スーパーリンペイ

東西対抗戦・男子大将戦の様子



を降し、再び両軍の勝ち星が並んだ。勝負のかかる大将戦、東軍・石塚将也(帝京大)と西軍・大西誠一(近畿大)の対戦は、石塚が接近戦から大西を掴んで崩し、上段突きを決めて技あり。そのまま時間となって、判定で石塚が勝利。東軍が8―7で接戦を制した。

◇女子

先鋒戦は西軍・中村しおり(京都産業大)が、東軍・植草歩(帝京大)に上段突きを決めて判定で勝利した。その後、両軍は星を奪い合い、12鋒戦が終了した時点でも6―6と互角の展開となった。

13鋒戦、西軍・中島陽夏(近畿大)は、東軍・菊地葉月(拓殖大)に先制されるも、上段突きを2つ返して勝利した。

副将戦は、西軍・大野ひかる(同志社大)と東軍・畠山穂風(国士館大)が判定で引き分け、西軍リードのまま大将戦を迎えた。

大将戦は東軍・染谷香予(帝京大)と西軍・大西夏美(近畿大)が対戦。染谷は突きの連続技で攻め、上段突きを2つ重ねて勝利した。

大将戦で東軍が勝利し、7―7(1引き分け)と並んだが、トータルポイント数で東軍が技あり1つ分多く、内容差で勝利を手にした。

【大会結果】

■組手

- ▽男子①荒賀慎太郎(京都産業大)
- ②遠山将平(帝京大) ③須田芳広(国士館大)、遠山大輔(明海大)
- ▽女子①染谷香予(帝京大) ②植草歩(帝京大) ③中村しおり(京都産業大)、金子悠里(帝京大)

■形

- ▽男子①在本幸司(帝京大) ②中嶋俊文(慶應義塾大) ③星川大地(関西大)、林田至史(帝京大)
- ▽女子①清水希容(関西大) ②大野ひかる(同志社大) ③柏岡鈴音(同志社大)、川崎衣美子(国士館大)

■東西対抗戦

- ▽男子①東軍8―7西軍
- ②通算成績 東軍29勝 西軍25勝 2分け)
- ▽女子①東軍7―7西軍
- (内容差で東軍の勝ち)
- ③通算成績 東軍15勝 西軍9勝



日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光日本武道館会長



(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手からての精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

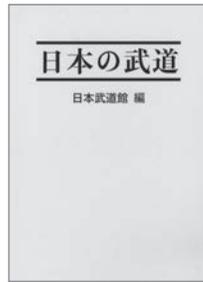
お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤 弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤 弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

(四六判・上製・372頁)

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授 菅野 純 著

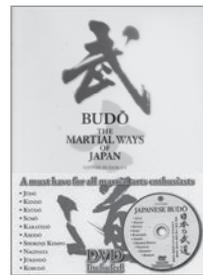


臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

(四六判・上製・410頁)

BUDO: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

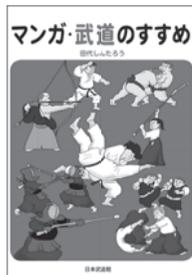


武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

月刊「武道」記者 田谷将俊 著



月刊「武道」記者 田谷将俊 著
各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)

全日本学生柔道優勝大会

東海大が史上初の6連覇(男子)

環太平洋大が2連覇(女子5人制)

東京学芸大が初優勝(女子3人制)



男子決勝・副将戦＝東海大・羽賀(左)が日本大・黒木から内股で一本勝

平成25年度全日本学生柔道優勝大会(男子62回・女子22回)は、6月22・23日の2日間、日本武道館で開催された。

大会初日は女子5人制、3人制、男子1回戦が行われ、女子5人制では、昨年度優勝の環太平洋大が勝利し2連覇を遂げた。女子3人制では、東京学芸大が初優勝を手にした。

2日目に行われた男子決勝では、東海大が日本大を降して史上初の6連覇を達成した。

男子(62校出場)

試合方法は、7名の点取り式によるトーナメント戦で競われた。

前回優勝の東海大は、4回戦の桐蔭横浜大戦まですべて7-0と圧倒的な強さで勝ち進み、準決勝へ。天理大は前回3位の明治大を3-2で破り、準決勝で東海大との対戦が決定。

前回準優勝の日本大も、3回戦まですべて7-0と順調に勝ち進み、4回戦、日本体育大に5-2で勝ち、準決勝へ進んだ。前回3位の国士舘大は、筑波大との接戦を2-1で制し準決勝へと駒を進めた。

▽準決勝

東海大 3-2 天理大学

先鋒 小原拳哉○背負投 辻本拓記

次鋒 ベイカー素秋○優勢勝 土井健史

五将 阪本健介 引分 大野将平

中堅 松雪直斗 引分 村上亮

三将 羽賀龍之介 背負投○安田知史

副将 王子谷剛志○優勢勝 石内裕貴

大将 奥村達郎 内股○丸山剛毅

東海大は先鋒小原が、背負投で一本勝。次鋒ベイカーも優勢勝。五将、中堅と勝負がつかず引分け、三将戦、東海大・羽賀は背負投を決められ一本負。副将戦は東海大・王子谷が指導で得た技有ポイントで優勢勝となり、決勝進出を決めた。

▽準決勝

日本大 3-2 国士舘大

先鋒 片岡 仁 引分 小川竜昂

次鋒 ヒメ・カヨ○優勢勝 浅沼拓海

五将 制野孝二郎○優勢勝 村上拓

中堅 原沢久喜○優勢勝 釘丸太一

三将 藤川和紀 優勢勝○遠藤翼

副将 大内一徹 優勢勝○井上貴裕

大将 黒木正弘 引分 田中大貴

先鋒戦は引分け、次鋒戦は日本大・レイズの優勢勝。五将戦は日本

大・制野が国士館・村上から背負投の有効ポイントで優勢勝。中堅戦は国士館・釘丸も攻めるが、日本大の原沢が優勢勝。三将、副将戦と国士館大が優勢勝となり、勝負は、大将戦へともつれ込む。国士館大・田中も積極的に攻めるが、勝負がつかず引分け、日本大学が3―2で決勝進出を決めた。

▽決勝

東海大 6―1 日本大学

先鋒 阪本健介○優勢勝 稲田 基次鋒 松雪直斗 優勢勝○原沢久喜五将 王子谷剛志○優勢勝 制野孝二郎中堅 長澤憲大○優勢勝 片岡 仁三将 ベイカー・表秋○大 腰 レイズ・カール副将 羽賀龍之介○内 股 黒木正弘大将 奥村達郎○横四方固 大内一徹先鋒戦、東海大・阪本は左組、日本大・稲田は右組のケンカ四つとなり、お互いに攻めきれず、東海大・阪本が指導で得たポイントの優勢勝で先制。次鋒戦、東海大・松雪は、日本大・原沢に攻め込まれ、指導を2つ与えられる。その後、松雪は原沢の小外刈を透かして大外刈で有効を奪うが、さらに指導を与えられ、



男子決勝＝東海大の三将・ベイカー（左）が日本大・レイズから有効を奪う

原沢が技有ポイントの優勢勝を収めた。1―1の同点で迎えた五将戦、日本大・制野に指導が3つ重なり、東海大・王子谷が優勢勝。中堅戦は東海大・長澤が日本大・片岡から袖釣込腰の技有ポイントで優勢勝。三将戦、東海大・ベイカーは、日本大・レイズに内股を決められそうになるが、これを躲す。その後、ベイカーは、大外刈で攻め、レイズがバランスを崩した所を引き倒し、有効を奪う。お互いに積極的に技を仕掛ける中、ベイカーが技をつなぎな



6連覇を達成した東海大

がら、場外間際で大腰を放ち、技有を奪う。日本大・レイズも攻めるが試合終了。1年生のベイカーが技有のポイントで優勢勝となり、東海大の優勝を決めた。副将戦、東海大・羽賀は、日本大・黒木との組手争いの中、十分な組手から内股を決めて一本。主将が6連覇に華を添えた。大将戦、日本大・大内は積極的に技を仕掛けるが、東海大・奥村に横四方固を決められ、試合終了。東海大は大会史上初となる6連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ東海大・上水研一朗監督
「気合が入っていることは当たり前、稽古をやるのも当たり前。私は技術的な部分、戦術的な部分の指導をするので、気合が入っていないなどということ言わせないでくれと、学生たちに伝えてきました。6連覇はどこも達成できていない記録です。他に真似のできないような、素晴らしい集団にならないければ、6連覇にはふさわしくないといい聞かせました。

求めたものは高かったので選手たちはとても苦しかったと思います。本当に素晴らしいチームでした」

◎優勝Ⅱ東海大主将・羽賀龍之介選手
「4年間出場してきた中で、一番嬉しいです。主将として、自分のことと同じくらいチームのことを考え、稽古を積んできました。

今日は、本調子ではなかったのですが、キャプテンとしての自覚を持って戦えました。チームの雰囲気もよく、皆で切磋琢磨してきたので、6連覇を達成できたと思います。ベスト4に残った大学との実力差はないですが、チーム力で勝てたと思います」

女子5人制 (32校出場)

5名の点取り式によるトーナメント戦で争われた。選手は、先鋒、次鋒・体重57kg以下、中堅・副将は70kg以下、大将は無差別。

▽準決勝

前回優勝の環太平洋大、前回2位の山梨学院大、前回3位の帝京大、東海大が勝ち進んだ。

環太平洋大と帝京大の対戦は、まず先鋒戦は引分け、次鋒戦は環太平洋大・黒木が小内返で有効を奪って優勢勝。中堅は引分け、副将戦は環太平洋大のヌンイラが内股で一本勝。大将戦も環太平洋大・梅木が払腰で一本勝。結果、3-0で環太平洋大が決勝進出を決めた。

一方、山梨学院大対東海大の対戦では、まず先鋒戦、山梨学院大・連が上四方固で一本勝。次鋒戦、山梨学院大・塚田が指導2で得たポイントの優勢勝。中堅戦は、山梨学院大・佐野が裏投で一本勝。副将戦、山梨学院大・馬場が指導2で得たポイントの優勢勝。大将戦は引分けとなり、山梨学院大が4-0で決勝に勝ち進んだ。

▽決勝

環太平洋大 3-2 山梨学院大

先鋒 谷本 和 優勢勝○連 珍玲
次鋒 黒木美晴○優勢勝 塚田紗矢
中堅 ヌンイラ連○大外刈 馬場菜津美
副将 高橋ルイ○大外刈 佐野賢世子
大将 梅木真美 払 腰○井上愛美

先鋒戦は、山梨学院大の連が小外掛で技有を奪い優勢勝。続く次鋒戦では、一進一退の技の応酬の中、環太平洋大・黒木の背負投が技有となつて優勢勝。

同点で迎えた中堅戦、ケンカ四つで、互いに引き手が取れず膠着状態が続く中、残り14秒、環太平洋大のヌンイラは、山梨学院大・佐野が下がったところで、大外刈を放ち一本勝。副将戦は、環太平洋大・高橋の大外刈が決まり、環太平洋大が優勝を決めた。

大将戦は開始14秒で環太平洋大・梅木が山梨学院大・井上に払腰で敗れ試合終了。結果、3-2で環太平洋大が大会2連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ環太平洋大・矢野智彦監督
「一人ひとりの選手が役目を果たしてくれたことに感謝しています。団体で日本一になるには、一人ではで

きないことなので、各自がその責任を感じ、日本武道館で力を発揮しないと勝てません。常にどのような練習でも、この会場の雰囲気イメーJとして稽古しなさいと言ってきました。なので動揺もしないで戦えたと思います。そのような小さな準備が彼女たちを支えてくれたんだと思います」

◎優勝Ⅱ環太平洋大・高橋ルイ選手
「自分が勝つて優勝を決めようと思つていました。プレッシャーはありませんでした。大将の調子はよかつたので、私が勝てなくても、絶対勝つてくれるという安心感があつたので、私のはのびのび戦うことができました」

女子3人制 (31校出場)

3名の点取り式によるトーナメント戦で争われた。体重は無差別。

▽準決勝

4強に駒を進めたのは、鹿屋体育大、創価大、道都大、東京学芸大が揃つた。

創価大対鹿屋体育大では、先鋒戦は引分け、中堅戦は創価大・後藤の

女子5人制決勝Ⅱ環太平洋大の副将・高橋(手前)の大外刈が決まり、環太平洋大が2連覇



払巻込が技有となつて優勢勝。大将戦は鹿屋体育大・古賀が指導2で優勢勝を納め、代表戦へともつれた。

代表戦では、創価大・後藤が指導2で得たポイントで勝ち、決勝へ。

東京学芸大対道都大では、先鋒戦で東京学芸大・角田が朽木倒で有効を奪い勝利した。中堅、大将戦は引分け、東京学芸大が決勝へ進出。決勝は創価大と東京学芸大の対戦となつた。

マンガ・武道のすすめ

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一
吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！



B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



女子3人制決勝II東京学芸大の先鋒角田(奥)が腕挫十字固で一本勝

▽決勝

東京学芸大 1内1 創価大

先鋒 角田夏実○腕挫十字固 蟹江和美

中堅 諏訪里英 優勢勝○後藤美和

大将 佐藤歩実 引分 柳川愛佳

先鋒戦は、東京学芸大・角田が腕

挫十字固で一本勝。中堅戦では、東

京学芸大・諏訪(52kg)と創価大・

後藤(110kg)が対戦。体重が約半分

の諏訪は、後藤に終始押されてしま

う試合展開となり、後藤が指導3の

技有ポイントで優勢勝。

勝負のかかった大将戦、お互いに

技を掛け合うが決まらず、引分けと

なり、勝ち星では1-1と並んだ

が、内容差で東京学芸大が初優勝に

輝いた。

◎優勝II

東京学芸大大将・佐藤歩実選手

「4年間優勝を追い続けた思いが実

現でき、本当に今まで生きてきて良

かったと思います。すごい嬉しいで

す。

卒業後は中学校の体育教員となり

ます。いま柔道は怪我の問題で危な

いと言われていますけど、柔道本来の

楽しさを少しでも多くの人に知って

もらえたらと思います」



【大会結果】

■男子

①東海大②日本大③天理大、国土館大

▽優秀選手II羽賀龍之介(東海大)、ベイ

カー茉秋(東海大)、原沢久喜(日本

大)、レイズ・カオル(日本大)、安田

知史(天理大)、田中大貴(国土館大)、

深川雄貴(桐蔭横浜大)、上田隼麻(明

治大)、五味江貴(日本体育大)、黒岩

貴信(筑波大)

■女子5人制

①環太平洋大、②山梨学院大、③帝京大、

東海大

▽優秀選手IIヌンイラ華蓮(環太平洋

大)、連珍玲(山梨学院大)、前田奈恵

子(帝京大)、烏帽子美久(東海大)

■女子3人制

①東京学芸大、②創価大学、③鹿屋体育

大、道都大

▽優秀選手II角田夏実(東京学芸大)、後

藤美和(創価大)、古賀ちなつ(鹿屋

体育大)、廣海共美(道都大)

待望の単行本化 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館 図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点
欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門
新大陸へ派遣第2号
異種格闘技に生きた前田光世
英国柔道の基礎―武道会
武道会を訪れた嘉納と高弟会田
小泉が語る英国柔道史
仏蘭西への道

メトード・カワイシとは何か
駐仏日本国大使 杉村陽太郎
続々と仏蘭西へ
海外より見た柔道―独逸通信
東洋への進出
異文化理解の容易なぞ

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜
嘉納近き連盟成らず
欧州から国際柔道連盟の結成
講道館長、国際柔道連会長に就任
世界柔道選手権大会開催
東京五輪招致成功
東京五輪と正式種目柔道
パリの仇
体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進
変わり行く柔道
不易流行



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



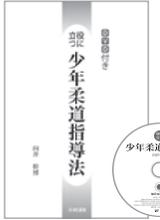
BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)